

新井隆存編輯

十八史畧

明治九年
十二月二日
版權免許
積玉

特32
274

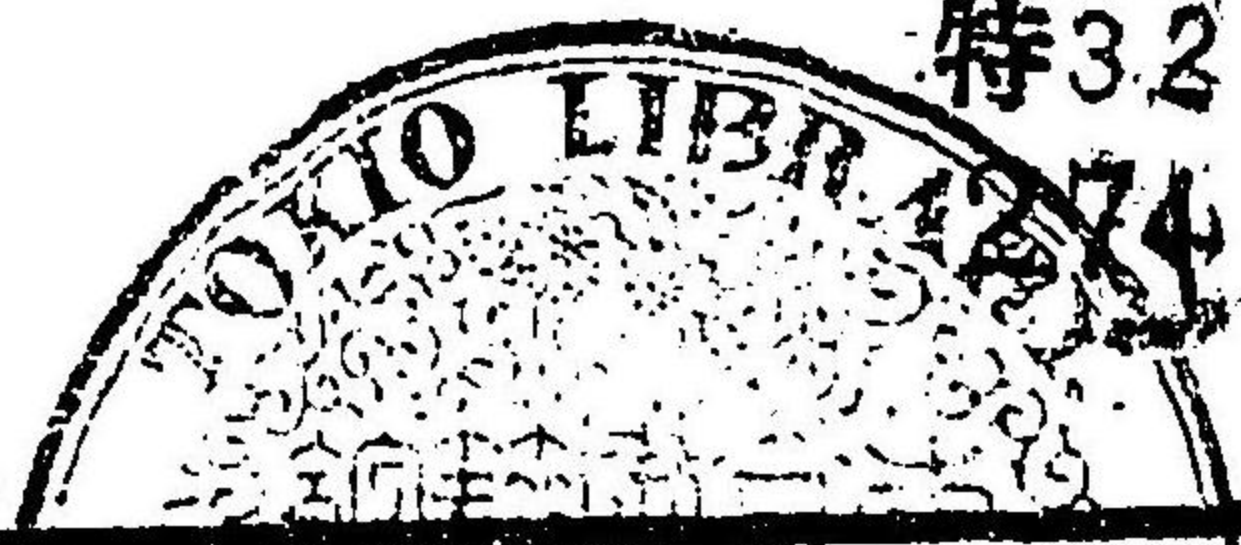
凡例

一此書ハ正文ノ難解トスル所ノ幾字ヲ抄出シ且ツ訓ヲ施シ間注解ヲ加ヘ以テ兎輩ノ便ニ供ス蓋シ老婆ノ微意ニ出ルモノ也

一此書ハ正文ノ枚數ヲ天餘白ニ舉ケ兎輩ヲシテ着讀ニ便ナラ令ム是レ此書ノ他ノ字引類ト異ナル所以ナリ

一此書正文中ノ古文字ノ如キ旧注之レヲ委曲ニ記

特32



東家類

凡例

明治十三年七月

一此書ハ正文ノ難解トスル所ノ幾字ヲ抄出シ且ツ

訓ヲ施シ間注解ヲ加ヘ以テ見輩ノ便ニ供ス蓋シ

老婆ノ微意ニ出ルモノ也

一此書ハ正文ノ枚數ヲ天餘白ニ舉ケ見輩ヲシテ看

ナラ令ム是レ此書ノ他ノ字引類ト異ナル

精類

文中ノ古文字ノ如キ旧注之レヲ委曲ニ記

東家類

凡例

セス故ニ正字通ニ依テ訂正ス者者察請

一此書ハ固ト予カ一時ノ講案ナルヲモテ周ノ部ニ

出セシ熟字再ヒ秦ニ出テ又漢ニ出ル如キ必シモ

尋常熟語解ノ例ヲ以テ看ル母レト曰爾

一此書ノ枚數ハ岩垣龍溪ノ大本ニヨル看者ヨロシ

ク照合シテ其便要ニ隨タカハ、幸甚ナラン

纂述者識

十八史畧講案卷上

新井隆存 纂述

○卷之一

○王去声人ヨリ称スル則ハ平声其身○攝提星名○無天下ニ臨ム則ハ去声下皆依此

為而化無為トモ自ラウ風俗ノ化スルヲ云也○長君長ノ

當時所謂區長戸○九州冀、兗、青、徐、揚、荆、豫、梁、雍○構木為巢禮記集說

薪以居也○木實桃李又ハ梨柿ノ類ノ如キヲ云也○火食火ヲ用テモ

○攷考古ノ○姓己ノレガ祖先ノ依テ○氏ガ子孫

000000

丁一

ノ依テ分ツ所ヲ云下皆倣此ニ

○蛇身人首 身体蛇ニメ首 頸人ナルヲ云 ○八卦 乾

艮異震 ○書契 木ヲキザミタル其ノ字ニ書シテ事ヲ 離坎兌 ○結繩之政 コレハ古文字在

ハカイトヨムベシ ○嫁娶 皆姻ノ事 ○以儷皮

ハ大繩ヲ結ヒ小事ニハ小 ○魚 魚ヲ捕 ○養 育

為禮 儷音麗對也ムカヒヨウ何トナレバ古ハ鳥獸

也 ○網罟 小大アミ ○佃 禽獸ヲ取 ○魚 魚ヲ捕 ○養 育

乎何トナレバ以ノ字不通養犧牲 ○庖厨 コロ也 ○瑞

瑞相ノ一ニメ ○都 其邑ニ宗廟先君ノ主アルヲ都ト

都ト ○陳州 河南

崩 山ノクスル、天子ノ死ナ

云伏義妹也或曰女媧氏亦風姓蛇身人 ○笙簧 十三管

首有神聖之德代宓狄立号曰女希氏 ○觸 突也又 ○五色

ニ列子簧ヲ管端ニ ○祝融 頤頤ノ

青黃赤 ○補 補ヲギノク所謂欠破 ○鰲 水中大龜也傳

白黒 ○溜水 大水洪水 ○旧物 太古ヨリ

四極 東西南北ノ ○十五世 五ノ字當作六雖然莫知

○没 没入ニメ ○没 没入ニメ

丁二

十八史釋義

卷之十一

牛首ゴウシウ頭二角トウニカク也也 ○ 耜シ土ヲ起スモノニメ今所用 ○ 耒ライ耜ノ

柄テ也 ○ 蜡祭サクサイ十二月報田之祭ヲ夏ニハ清祀セイシ也殷ニハ嘉平カヘイ也周ニハ大蜡ダイサク也秦ニハ臘ラク也始皇又

更カテ嘉平カヘイ也皆一也按蜡サクハ索也歲ノ十二トウニ月ニ萬物ヲ合聚メ之ヲ索饗スルヲ云 ○ 赭チヨ赤也 ○ 帝テイ

則ソノ帝百ヒャク世紀セキ作ス帝明帝テイメイテイ ○ 襄シヤウ世紀セキ作ス哀アイ

○ 姬キ姓名軒轅ケンエン史記シキ康隱カンイン曰黃帝生於壽世長於姬水日ニ以為シ姓居軒轅之世日以為シ名又以為シ号

是シ本姓公孫長居ス ○ 電テン陰陽相依テ激キツ ○ 樞星シュセイ北斗ノ第一星也

姬水キスイ目改姓メカシ姬キ ○ 感カン水月相ヒ照ス如キモノニメ樞シュ ○ 衰サイ衣イ微ミニメテ

○ 不享フキヤウ来リテ朝勤チウキン ○ 咸カン皆也 ○ 阪泉ハンセン地在チ ○ 銅鐵額ドウテツガク額

丁三

堅固ケンコウナ ○ 大霧ダイモ陰陽蒙冒ノ氣ヲ云蚩尤チウユウコノ大ダイ指南シナン

車シャ古制不傳至唐コクセイフツデンシトウ ○ 涿鹿テウロク郡屬北平今クンノクニノクニ ○ 禽キン擒也 ○ 舟車シュシャ今

河圖カト音ノエト蔡氏サイシ ○ 占斗ケントウ建ケン斗柄ノ指ス処 ○ 伶レイ

倫リン音樂ヲ奏 ○ 嶰谷カイコク在崑崙クワンロン之北 ○ 十二律ジュニリツ律ノ一委イク

出デ ○ 候氣應コウキオウ漢志ニ出デ ○ 十二鐘ジュニシユウ十二律ニ應オウ ○ 五音ゴオン角

羽ウ宮徵クウシキ

○ 華胥クワキョ未分明ミフメイ ○ 怡然イゼンム良ノシ ○ 治チ物ヲ理ル則ノハ

則ノハ ○ 胡髯コセン按ニ胡人髯長シ故ニ之ヲ假用 ○ 鼎湖テイコ全

去聲 ○ 胡髯コセンメナカキヒケテ謂乎可再考

丁四

一八景書

ヲ案スルニ九州府籍雲龍仙都山ニ
在リト云注ニ日夕黄帝上九天也
○雜糅ル混清ス

方漢郊祀志曰
音倣依也
○物也
○南正重
南當作木木正
八春官重八名
○火正

黎大正八夏
黎八名
○元
謂歲首也
○神靈
神識靈妙

○堯
博衍衆聖之主百王之長也
至高之只清妙高遠優游
有蓋法乎
○仁如天
速ヲ云
○知如神
知ノ神妙ナルヲ云知智ニ同

○如日
言ハ日ノ人ヲ照臨スルニ人悉クコレニ依
シ如
○如雲
言ハ雲ノ覆渥スル人悉ク之ヲ仰キ望ムヲ
云クトハハ百穀ノ膏雨ヲ仰グカ如トシ

○平陽
府屬
○茆茨
ノチカヤ
○土階
土ヲツクリタル

○厭
乾音淹也
○旬
十日ヲ云フ
○朔
月ノ一
○億兆
衆多ノ民ヲ云也十方ヲ億ト

○外朝
朝ニ出勤セザル者ヲ云
○在野
野外ニ在ル者ヲ云
○微服
微賤ノ服ヲキテ

○康衢
路四通曰衢五達曰康
○童謡
爾雅ニ徒歌ノ

○烝民
猶曰衆民
○則
帝堯ノ立ルル法則也
○擊壤
莊子天地篇ニ出ル

○嗔
アトト訓ス
○封人
封疆ヲ掌ル官
○授
付也

○華封人
莊子天地篇ニ出ル

○物
万物ヲ云也

○昌
良盛美

○間
也問

○厭世
イトクヨラシヌル

○仙
死者也

○九年
之

丁六

○昌
良盛美

○間
也問

○厭世
イトクヨラシヌル

○仙
死者也

○九年
之

水ハ洪ニ○魚鯨崇伯ノ名○九載九年○績功績也○倦倦也

又ア○四岳名官○攝行攝政行事○不肖賢父ニ若○薦薦也

薦舉ニメス○舜舜白虎通曰ク謂之舜何舜猶舜○姚姚也言能推信先道而行之ヲ

音重重平声言ハ光既ニ光華有リ舜又光華有リヨ○造造孔安國曰無目曰瞽父有目不能分別好○後妻ノ

瞽瞽瞽惡故時人謂之瞽配字曰瞽々無目之稱○後妻ノ

○孝悌父母ニ善キヲ孝トイヒ兄弟ニ善キヲ悌ト云○姦姦也○歷山也

鄭女曰○畔畔田界也○陶陶スエモノ○雷澤河濱共ニ地

不苦疏器ノ用ニ足ルヲ云也○聰明メイナル

妻以女事○媯洧媯ハ水名洧ハ水ノクマニ○放放他ニ

○窳窳驅逐禁錮○三苗名

○八元伯奮仲堪叔獻季仲伯虎仲熊叔豹季狸皆高辛氏ノ子也○八愷蒼舒、賁、敷

○九官舜典ニ出○十二州○景星猶星○卿卿也

○五絃後加文武ニ○厚厚也○景星猶星○卿卿也

○百工百執事ノ○爛爛生ニ光彩○禮禮天子

○且且朝○巡狩守ル所ヲ巡

○漫漫平安舒○且且朝○巡狩守ル所ヲ巡

○漫漫平安舒○且且朝○巡狩守ル所ヲ巡

丁七

孟子ニハ天子ノ諸侯ニ適クヲ云 ○蒼梧山名 ○夏世紀作樂曰大夏公大也言ハ大堯舜之徳也

○禹世紀曰按禹名字高密史紀謂禹名文命是 ○湮塞也 ○外謂野也 ○家門已

ガ家門也 ○擗以板作之植行泥上其形如笑 ○擗鉄モテツクルモノニ

○九州キウシウキウドウキウタクキウガン 九道尚書ニ 九澤出ル 九山也 ○陂障也 ○度猶曰濟度

○告音谷 穀文云上布於下則音諾 ○成功デキアガリタルシコト

○踐位下告於上則音谷下皆倣之 ○一饋十起一孟ノコゼンヲタブルニモ十タビタチアガリ

民ノ勞苦ヲ思フ ○寡人國君自ラ稱スル辭所謂 ○醴酪六書

也酒類 ○儀姓 ○狄名 ○疏疎也 ○九牧九州ノ牧也

○三德正直ト剛ト柔トヲ云 ○塗山地名 ○黃竜負舟呂氏春秋ニ出ル

蝦蟇エシテキヲ云 ○免俯也 ○繼兼也 ○之適ク ○甘地名 ○磬游猶曰

盤回 ○窮國也 ○胤國名 ○自立 ○壁臣ノケウイ ○扃一本 ○醢肉醬

○未通鑿 ○傾瓊 ○脯乾肉 ○堤防也 ○牛飲牛ノ飲ル

○走ル ○鳴條地名 ○南巢地名 ○以人 ○禱人モツテイ

○莘國名 ○夏臺獄名 ○南巢地名 ○以人 ○禱人モツテイ

人柱ヲ立 ○齋戒洗心日齋 ○女謂婦女ノ請 ○苞苴モ

ル如キ也 ○齋戒防患日戒 ○女謂謂ヲ云 ○苞苴ノ

丁十

ヲ衰テ人ニ贈ルヲ ○方コト四方

云所謂マヒ十ヒ ○不明カ、ナラザル道理ノ明 ○桐宮地名湯 ○拱両手ノカ

云通鑑曰ク ○枯死カル ○圮所河 ○胥靡世説注曰刑

徒也謂相從 ○雉野 ○雉啼也 ○無道仁義ノ道 ○偶

坐輕刑也 ○博局 ○倭辱ハツカ ○革囊フクロ ○盛

音成 ○血人血 ○捷疾

○為暴雷震死雷ノ為ニウタレコロサル、 ○捷疾

ハヤ ○手格テコロシ ○箕子箕ハ國名子ハ ○土簋ハ

圓ニメ外八方也以テ ○藜アカ ○藿豆ノ ○短褐野賤

黍稷ヲ盛ルモノ ○深 ○沙丘地名ニ ○長夜之飲秋夜

ヲ ○九重宮闕ノ ○膏油 ○滑足ノズル

カナ ○炮也 ○烙焼 ○庶兄妾母ノ ○窳アナ ○佯音羊

ルハ ○歎息クナダ ○昌文 ○衣去声 ○墟城 ○漸麥秀 ○油

○狡童調射 ○巨人周紀注曰 ○不祥ヨカ ○隘巷

イナカ ○屹卓立 ○好種樹コノム ○成人年ノ成長

ノナカ ○屹卓立 ○好種樹コノム ○成人年ノ成長

ノナカ ○屹卓立 ○好種樹コノム ○成人年ノ成長

三十

二十

一十

十八ノ又ノ言ノ...

卷之十一

四十

○旁國 ハツコク 述降ノ ○如 ヨシ ヲ云 ユク ○荆蠻 ケイバン 荆ハ楚ノ旧号 蠻ハ南夷ノ名 ○文身 ブンシン

イレス

五十

○受命 ジュメイ 史記注云受命受西伯之命非称王也袁氏 謂受命乃受天命耳所謂冥王而不王者也 ○東

海 カイ 全書作 クハ ○窮困 キウコン クルシム ○影 エイ 神獸 ○熊豕 ユウシ 形似 ○羆

熊ニ似テ長頭高脚也 ○獯 ヒ 獸 ○陽 ヨウ 也南 ○耶 ヤ 語 ○王屋 ワウワク 王ノ居スル 処ヲ云又ハ

山名ト ○引歸 インキ 師ヲカハスヲ云フ ○不悛 フセン 已ノガ過ヲ改メザルヲ云 ○木主

神主 ○弒 シ 大逆

六十

兵 ヘイ 猶殺也 ○追尊 ツイソン 先ニシテト ヲリトクトム ○蔽 ヒ 蔽ニ似タルモノ

世有リテ味ヒ苦シテ ○餓而死 ガクニシ 論語ノ夷疏ニ 七日メ死ス云 ○成王幼 セイワウコウ 成王十三

歳十 ○孺子 ジュシ 稚子ノ一ナリ 即チ成王ヲ云 ○歸政 キセイ エル一ヲ云ナリ

初 ハツ 此年之事ノ始メヲ云 下 ゲ 先是辰類ニヒトシ ○營 エイ 構也 築 チク 建也 都 ト 王ノ居ス

○重 カチ 三譯 ヤク 重ハ平声譯ハ西番ノ語ヲ通スルヲ云也 ○獻 ケン 下

マツルニクテ ○黃耆 ワウキ 老人髮白クノ又黄也面色 ○烈風 レツフウ

アウキ ○湔雨 ケンウ ノ大雨 ○錫 シキ 賜フ ○軒車 ケンシャ 四面ニ展蔽ノ

カゼ ○乘 シヨ 去声 ○暮年 キネン 年ノ一 周ヲ云 ○為 イ タメト訓 ○服 フク 從也 ○膠舟 カウシュ カニ

七十

ハニテス ○八駿馬 ハチケンバ 絶地翻羽奔霄超景 踰輝超光騰霧桂翼 ○西王母 セイワウボ 列仙

リタル舟

八十
○瑤池ヨウチ崑崙ニ在リ
○荒服クワフク外ヲ云ノ要服ノ僭シカニ

○侈傲シゴウシイマルホ
○監カン猶ヨウ察サツ○以目モク史記曰以目相賤而曰以目

也
○理リ治チナリ
○察サツ即キテ察サツ竜ノ精氣ナリ
○電デン史記

ノ注作蛇也
○妾セウ一本ニ作レ女
○縶エツ山桑ノ根也
○箕キ歴史綱鑑補注云草名似

謂レ蜥蜴也
○服フク也ニ矢房也
○鬻イク也ニ賣也
○嬖ヘキ也ニ愛也
○萬方マンバウ手ヲツ

為服ニ細可結
○服フク也ニ矢房也
○鬻イク也ニ賣也
○嬖ヘキ也ニ愛也
○萬方マンバウ手ヲツ

九十
○衰微スイビハルトロ
○春秋シュウシュウ魯ノ史ノ名
○霸ハ諸侯ノ權ヲニ
○卻キョク

○歿ボク死シス
○襲シヤク共ニソナヘザルヲ
○五ゴ

十二
○從ジュウ合カウ兵
○頓首トンスウニツクマラ地
○歷レキ也ニ數也
○述シュツ陳述ヲ云ナリ

○終始シュウシ猶ヨウ日國之興廢也
○栗リ大栗ナリ
○下方カフ冊以下ノ方
○聘ヘイ

一廿
○終始シュウシ猶ヨウ日國之興廢也
○栗リ大栗ナリ
○下方カフ冊以下ノ方
○聘ヘイ

○嘗シヤウ之シ膳テンヲナムル
○四君シクン夷味僚
○賂ロナヒ
○說セツ誘ユ音オン稅也

二廿
○櫨カ名木
○材サイ蓋カシシ棺材
○扶フ也ニ扶出也
○到ク也ニ到也
○鴟夷チイ馬草也

北ホク也ニ敗走也
○慎シン冒マウ面衣也吾州ノ如キモノ
○遺イ死シニシテアトニ
○布衣フイ下賤之謂也

○私從シジュウ謂レ家從也
○浮海フカイ舟ヲ海ニカベルヲ
○喟然クワイゼン聲オン也
○布衣フイ下賤之謂也

○私從シジュウ謂レ家從也
○浮海フカイ舟ヲ海ニカベルヲ
○喟然クワイゼン聲オン也
○布衣フイ下賤之謂也

十三

○為庶人スレヨシト今日ノ所レ謂
除族ノ事也 ○公族コウゾク鄭君ノ
族ヲ云 ○國氏コクシ子産ノ文
字ハ子國

故ニ以 ○自固ジコ他ニヨラズ能カ
ラカタク守ル ○圭ケイ瑞玉
○若ニク也 ○有ユ

龜リヤウ喻重 ○五蛇ゴダ喻狐趙顛
魏介五臣 ○一蛇イチダ專ツ喻子
推ナリ ○剗キ割ク ○噫イ

恨声ヲ ○中野チクヤ猶レ白
野中 ○綿上メンシヤウ地名
○寒食カンシ清明前三日禁火
之レヲ寒食ノ節

云ト

一世

○弱ジヤクキヨハ ○家人カジン庶人ノ一也
按謂臣僕乎 ○傳フ相ノ ○置チ設大
教也

二世

○賈コ坐商 ○匡キヤウ正也 ○非人情ヒニジン世人ノ情意ニ
カナハザルヲ云 ○自宮ジコウハ
宮刑ノコトニメ男

根ノ勢ヲ割クヲ云 ○殯歛ヒシレン朱子ノ家礼ニ曰ク古ヘ死
メ三日ニメ歛ス歛メ而メ后

ニ殯ス殯メ而 ○尸虫シチウムシノ一
ムシノ一 ○狐裘コウキウ裘ハ皮衣也
未考

○三十年サンジヤクネン其服スル久
キヲ云ナリ ○豚肩トシケンイノコノ
カタノ一 ○不掩豆フアハトウ節儉
ノ實

見ル ○揚ヨウ々ク盛ル ○私語シゴヤク
ベシ

三世

○工正コウセイ百エヲ司 ○謚イ死
后ノヲク ○甌窶オウク高田
ノ一 ○汗邪カンジャ

低田 ○穰ジヤウ豊盛 ○辟ヒキ開
也 ○寧ネイ安也

四世

○阿ア名邑 ○飾詐シヤクサイツ
ハリヲ ○郊城コウシヤウ外
ノ一 ○徑寸ケイセンワタリ一
寸

○檀タン姓也史失其古
者大夫皆稱レ子 ○種首シュ名也史
失其姓 ○喜キ好也
ム一 ○數ス

百千人ヒヤクセンニン一本無
千ノ字

一ノ史記集解卷之十一

五世

○黠ケ額ニイリス
○陋ケ道ノセ
○燭ト照シト
○豎シ子ノ孫ノ腹ノ言ハ

○食客シヨクカク寄食ノ者ヲ云
○姬キ周ノ姓也蓋シ也
○狐コ白ハク裘キウ狐ノ腋ノ下ニ白キ毛ト

六世

○錡ツツ鉞ノ屬也
○編ヒアム
○絳コウ繒ソウ衣イ赤キキヌチノ衣ヲ云
○脂シ油也
○葦イ

七世

○傳フ舍ヤ警ク停リテ宿ス
○息ソクノ利息ト
○反ホン間カン其共說ヲ反メ以テ離間スルト

八世

○五ゴ國クニ魏ノ燕ノ趙ノ魏ノ韓ノ
○遺イ腹フ子コ父ノ波メ生ル子也

九世

○匿カクルカク
○唯イ々ハ順從スル
○鄂カク々ハ諤ト同シ吃ト
○板ハシ犬一

十世

○漆シツスルシ
○飲イン器キ酒器ナリ
○刑ケイ人ニ賤役ヲ取ル人ニ屬ス

十一世

○遇ウ待タ也
○舍シヤ鮮也
○厲レイ謂病也
○炭タン或曰炭當作炭考異曰福州山有出炭似炭食

十二世

○恐キョウ喝カクスト
○鄙ヒ諺ハヤリト
○鷄ケイ口コ雞小

十三世

○牛ギウ後ゴ牛大ト雌モ進ムニ
○鄙ヒ諺ハヤリト
○鷄ケイ口コ雞小

十四世

○俯フ伏フツムクツ
○畏イ懼クルチソ
○輕ケイ易イムカルシ
○負フ郭カク外郭城ノ

ト ○胡地ノ北 ○中山名國 ○和氏璧韓非子 ○償還ス ○

紹多ム アク ガ

一十四

○五步綱目集覽曰古者八尺為步今以周尺六尺四寸為步此言五步之內蓋言至也 ○叱カシ

ル ○顧念カヘリ ミ ○祖神ヲ又キ 肉 ○荆荆木ノ 請扶ナリ

至ル ○刎頸之交史記要齊生先而刎頸無悔也 ○堅壁城壁ヲカタク

二十四

○同異合異為同 ○穎脫穎ハ未芒ニメイタク ○碌碌々

會編作錄 ○大呂大鐘

三十四

○頃頃刻ヲ云 ○三遺失索隱曰謂數起便也 ○尋尋也續也 ○

式車前ノ 横木ヲ云敬スル ○馮馮

四十四

○遇避也 ○履皮履 ○良妻一本作賢妻 ○殘忍シムゴク

薄行ハクギヤク ○技技キ取 ○疽癰ノ重キ ○吮吸也膿

ト出ス ○中流西河ノ中 ○山河之固山河ノ要害兵ノ

ヘニ固 ○洞庭在巴陵 ○彭蠡在彭澤

五十四

○視吾舌本傳其妻曰嚙子母讀書游說安得此辱乎張

日足 ○横ヨコ マ ○為秦地筌蹄云實 ○壁止ス

首功一番テガ ○即若ト 肆然マホシイ ○責求ム

一八

者ノ類ノ如 ○不期年ズキネチラ一年ナラ
キモノナリ

十五

○隙ギク怨ム也 ○復フクモルトニモ ○堪カン刺也 ○慨ガイ然ゼン思フコトノト
○伏フク哭ク其屍ニ伏メ ○焯チヤウ堅也 ○如ニ縷ル通鑿注曰血出如縷也 ○易エキ水スイ

○伏哭フクク其屍ニ伏メ ○焯チヤウ堅也 ○如ニ縷ル通鑿注曰血出如縷也 ○易エキ水スイ

中山國新城縣ノ西北ヨリ出テ南東 ○蕭シヤウ々ク風ノ鳴也 ○

貫クワン徹也 ○擲チキ也 ○體タイ解カイ謂分其體 ○徇ジュン衆ニ令 ○三サン當作五

一十五

○汧ケイ渭イ水名ニ ○附庸フヨウ小國ヲ云ナリ俗 ○倍バイ反也 ○冒ボウ侵

○脫ダツ也 ○亡ワウ也 ○善馬センバ良馬 ○野人ヤジン岐下ノ人ヲ云

二十五

○歸國キコク左傳ノ僖公ニ出ル ○滑クワ左杜注ニ曰ク鄭地企陳留襄邑縣之西北

○擯ヒン猶斥也 ○帝道テイドウ堯舜ノ道ヲ云 ○王道ワウドウ殷周ノ道ヲ云 ○霸道ハウドウ五霸ノ道ヲ云

○同賞ドウジョウ齊一級ニ昇ルヲ云 ○私闘シトウ相互ニ闘スルヲ云 ○本業ホンギョウ耕織トハスルコトヲ云

○私闘シトウ相互ニ闘スルヲ云 ○本業ホンギョウ耕織トハスルコトヲ云 ○連坐レンザ一家内犯スルトハアレバ其罪

ト、ヲ男女ノ根本 ○叔孥シュクニョウ孥ハ妻子ノ一秦ノ法一人有罪併収其室家漢ノ文帝

元年竟ニ此 ○布フ陳也 ○予ヨ與ル也 ○内息者ナイシキシヤ為禁キョウ今日所謂合家嚴禁

三十五

○不拾遺フシツイ道ニ落チタルモノ ○内息者ナイシキシヤ為禁キョウ今日所謂合家嚴禁

○如ニ也 ○阡陌センバク路ノ南北ヲ阡セン氏シ東西ヲ陌バクト云 ○舍シヤ

也 ○車裂シャレツ車ヲモテ其體ヲ曳キサクヲ云 ○酷コク苛酷 ○步過ホクワ六尺リク秦ノ制六

也 ○車裂シャレツ車ヲモテ其體ヲ曳キサクヲ云 ○酷コク苛酷 ○步過ホクワ六尺リク秦ノ制六

尺ヲ歩トス其歩ニ
百四十ヲ畝トス
○盡赤謂殺レ人
○自若又ハ自如

云云
○杼機ノノ
○羈寄也
○旅客也

四十五

○脉經脉ノ
注惑ル
正スベシ
○陰事謂私事也
○脅肋也
○拉推ク

○箕索隱曰
○溺尿ト
○懲戒也
○客卿ト云
○敝衣レヤ

○閑步人ノ眼ニカ、ラヌヨ
○無恙無事ヲ
○緜モルキ

袍ハ袂衣也
○膝行アルクテ
○慙ヒシタウ
○莖ハ

○畦日莖
○畦ハ

五十五

○睚眦ノ
○四時春夏秋冬
○併併吞ナリ

卷之一畢

○卷之二

丁一

○奇貨庶子楚
○適痛ニ
○処別宮謂不同居也
○土壤ツチ

○擇遷也
○黔首通鑑云ク黔ハ黒首也九ノ民ハ黒

ニハ黎民ト云如シ朱晦庵カ孟子ノ
註ニ黎民ノ黎ヲ黒也ト云可合考

○制製也帝王制度
○詔告ノ命ヲ云
○無謂謂無意也

○錄与篋通
○疏遠スキ
○守天子ノ為

丁二

○錄与篋通
○疏遠スキ
○守天子ノ為

○尉ノ守ヲ佐ル
○監郡ヲ監スル者ニ
○休息也
○方士外方

ノ人ヲ
○赭其山ヲ燒
云ナリ
○索也
○圖書符識ノ書ヲ云
○棄市殺メ其尸ヲ市ニス

十四

○鐵推ニ重サ百
○去除ク
○ト筮著ヲ筮ト云

臣男子ノ賤稱

十五

○阿房三山林氏曰阿山回也房旁也乃旧地名宮
○剛
○自用見也
○輻輳車上有窓閉之則温閑之則京
○租

○發表九月葬始皇
○鮑騰
○故臣始皇ニツカハシ臣下ヲ云ナリ

○僂傭人ノ為メニヤト
○隴田畝ノク
○悵然

○苟若ト

十六

○鴻雁
○鵠古ヘ鶴ト
○後使者案史記叔孫
○校尉事

十七

○逢起ハチノ葉ヲ離レタル如ク
○孫心按楚王孫名
○民望ノゾミノヨリ
○燕宴ニ
○間日

○五刑ハ類ニハレズミスルト射ハ鼻ヲ割ク

十之九 卷之二

一判ハ足ナ則ル一官ハ濫刑ニメ男子ハ勢ヲサキ婦人ハ凶閑スル一大肆ハ死刑ノコトヲ云フナリ

○腰斬 古制ニ罪ノ重キハ腰斬キハ判刑 ○三族 父母妻ヲ云也 ○鹿 淮南子云馬之

似鹿者千金天 ○默 謂不發言也 ○中 去声ア下無千金之鹿

丁八

○上將次將 吾州ノ大將中 ○関中 関中絶日東日函関西日竜関界ニ関之

間故日関中 ○漂悍 短氣ナリ ○猾賊 猶日洩溺 小便ス即安西ナリ

○傳舍 綱目集覽日傳者轉々相傳 ○踞 西足ヲノベ之義舍亭也猶今之館驛

○傳舍 綱目集覽日傳者轉々相傳 ○踞 西足ヲノベ之義舍亭也猶今之館驛

丁九

○霸上 地名 ○素車白馬 謂喪相也 ○西漢 都在関中 ○晦冥 負也

○交竜 竜ノ下 ○隆準 索隱日高祖感竜而生故其顔書注日高也 ○鬚髯 在頰日鬚 ○黒子 口也 ○豁如 開大準ハ鼻也

○呂公 史失其名相經日魏人也名文字叔平 ○息女 謂己所生 ○箕帚妾

ソウジバノツ カヒ女ト云一

丁十

○芒矟 名山 ○徒 徒罪ノ人ヲ云 ○徑 度也又 ○白帝赤帝 秦居行属金金色白故云白帝子劉

○苛 細也 ○氣 謂天子之氣也

一十

○采 同彩 ○登 同早 ○且 朝也 ○戮力 合カラスル一 ○嗔 自張

○皆 角眼 ○斗 斤謂十也 ○須臾 須臾也 ○梧 同孟 ○勻 酒ヲ挹

十八 卷之二

ルノ ○亞文ア フ 范增ヲ ○撞トウ 撲ボク

○豎子シラシ 斥シ 項也 ○屠ト 後漢書注例云 ○塞ソク 隔也 ○肥饒ヒネウ 土地コ

ルカナ ○沐猴而冠モクコウニメダク 言ハ人面獸心 ○陽尊ヨウソン 一本陽作伴

○致チ 猶復 ○三秦サンシン 項羽關中ノ地ヲ三分ニメ

○五星ゴサイ 木火土 ○胯下クワカ シマタノ ○熟視ジュクシ ミルク ○俛メイ 俯ブ ト

○蒲伏ホフツ 本作匍匐ボフボク 于カン 塞翟サイテキ 二字共ニ古之國名

桃林縣西至潼關皆是翟亦 古之國名今陝西延安府也

○里中之社リチノシヤ 廿五家ヲ里云索隱曰其里名庫上里社者

古陽武之脯脚陳平 ○孺子ニシ 陳平ノ字 ○宰サイ 烹牲也 ○遮說セツ 遮道

○振シ 奮也 ○木罍モクロウ 史淮陰侯傳注曰韋昭曰以木為器如罍

百十以木樽之浮于水以代缸蓋軍事取 ○方軌ハツキ 方ハ比

謂並行クニ ○騎キ 去 ○間道カンドウ 又ケミ

○掠リョク 却也 ○兵法ヘイホウ 子出孫 ○布フ 姓英氏楚將也史記黥布傳注

王 ○望バウ 巳ノガ望ム ○前箸為大王籌之ゼンチヨウ 張晏曰求借所

畫也或解云借前世湯武著明 之事以籌度今時之不若也

○撓ナウ 也乱 ○輟テウ 也止 ○鯁コウ キカク ○教倉コウソウ 山名 ○軾シキ 車前ノ

七十

六十

五十

四十

三十

二十

十八史記集解卷之三

ウフル

八十
○且渡ト當ト半渡ト○躡足ト王ノ足ヲ踏ト○附耳ト耳端ニロヲノ

フム

九十
○兩人ト張良ト○楚歌ト漢軍中ニ在ルカ○虞美人ト羽ノ愛

也姓
○飛ト舟ノヨ

丁廿
○大者王ト小者候ト師古曰大者謂ト橫身ト○海鳥ト山水中ニ

リチ
○窘ト苦ル也○髡ト鬻髮ト○針ト以鉄束ト○朱家ト名也

郎中ト官名

一廿
○兩賢ト綱鑑補注曰李ト○不忠ト不忠臣ト○拊ト拍也○赤松子ト

神農ノ時ノ仙人ノ
名列仙傳ニ出ル
○歐ト擊也

二廿
○械ト音諧ト桎也○從容トユル○天授ト人カノ及バ

三廿
○發縱ト指示ト本傳師古注曰發縱謂ト解ト而ト○此屬ト謂諸

○什方ト縣名○縣ト表位

四廿
○振恐ト肅敬トフルヒチソレツ○法酒ト御酒ト○誼ト雜查

○公主ト天子ノ女チ云○上愛ト謂上愛事也モト高

五廿
○失其鹿ト喻天ト○新語ト平生未タキカザルガユハニ新

十八史略卷之...

○太牢タイロウ 牛羊豕ヲ

○嫚侮マンクイ ヅアルナ
○偉イ 大也
○輔ホ 佐也
○空地クウチ ノアキチ
○慙コン 愚直也

○鳩トビ 毒鳥名
○瘖シ クラシニナル
○歲餘サイヨ 一年ヲス
○較コウ 明著ノ

○載サイ 事ヲ云也
○他入子タニシゴ 後官ノ子也
○刑ケイ 剋也

○凶イウ 也囚
○文帝ブンテイ 按高祖第三子
○明習メイシツ 事ヲ明ラメ
○惶愧ユウキ レヲハ

○理リ ナリ
○四夷シイ 四方ノ夷
○乘輿シヤウヨ 天子ノ
○蹕ヒ 天子ノ出

○起遷テウセン ハ轉任スル
○乘輿シヤウヨ 天子ノ
○蹕ヒ 天子ノ出
○得トク 捕ハ獲
○長陵テウリョウ 高帝ノ墓

ノ一山陵ヲ毀撤斥言スルニ
○杯ハイ 掬也
○廢徒ハイト 王ヲ廢セ

○上疏ジョウシヨ 漢書ノ本
○長太息チヤウタイソク イタクム

○淳于意ジュンシイ 史記作淳于公
○按轡アンマ ヨウニスル
○次ジ 屯也

○露臺ロタイ 露井ト同
○中人チュウジン 中等ノ人
○智囊チノウ チユノ多
○間カン

○堤テイ 字書曰奉也
○亟キツ 音棘スミヤ
○雜譏ザツギ 色イロ評

○姦カン 也惡
○書シヨ 檄書ノ
○要ヨウ 腰ト同
○鞅キヤウ 快ト同

○繁苛ハンカ ナハラヒノゾク
○休息キウシツ ヤスム

○廩リン 在屋ヲ云フ
○庾ユ 在野ヲ云フ
○貫クワン 穿錢ヲ
○陳チン ヲシキツ

三世

二世

一世 十三

九世

八世

七世 六世

○殖チク多也シヨク ○化クワ猶曰シヨク 衰化

○兼流ケンリウナガレヲナガレ ○通誼ツウギ古今カハラザルツク ○一統イツトウ春秋書王イツトウ

正月大シヨク ○五經ゴケイ詩書易禮シヨク 一統也シヨク

○巧發奇中コウハツキチウ謂下巧出詭異之言コウハツ ○丹沙タンシャ藥タン ○神事ジンジ神仙ノ事ヲ云ジン

○功符コウフ二字共ニコウ ○冉駹ゼンマウ西南ノ族ゼン ○縣懸ケンケン同シケン ○擢テキ拔也テキ

○及ク傾ク ○阿アハクア ○樂ガク音ガク ○興コウ起也コウ ○延エン引也エン

○樓蘭ロウラン西域國名ロウ ○歲首サイシユ夏ノ正サイ ○窖コウアナコウ ○羝テ牡羊テ

○巫蠱フコ巫挾左道以フコ ○白ハク告也ハク ○三輔サンホ京兆扶サン ○逢ハウ也迎也ハウ ○經ケイ

死シ也シ ○候神人コウジン史曰田千秋曰方士言神仙者甚衆而コウ 是也於此是悉罷コウ ○既往キヤク論語曰既キヤク 方士候神人者コウ ○既往キヤク 往不咎キヤク

○五柞宮ゴサクキウ宮有五柞木ゴ ○九世之讐クウセイノシ襄公九世ノ祖哀公クウ 千周至襄公八年クウ ○斥セキ也セキ ○仙人掌センジンヤウ玉盃ヲサセン 遂伐紀而復之セン ○仙入掌センジンヤウモテ雲表ノ露セン

飲ム可謂長生之藥クウ ○塩官エンクワン塩鹵ヲ掌エン ○緡錢コウセン緡糸ヲモテ錢コウ ○專セン檀也セン ○連レン頻トレン ○慙コウ愚ナコウ ○吾コ

今コ史注今猶即今也コ ○踞廁キョスニ廁ハ牀也蓋シ之レキョ ○不根フコン不經也フコ ○侏儒シュジュ字彙曰容シュ ○伏フツ日フツ ○細君サイジン謂サイ

謂今日後即君コ ○侏儒シュジュ字彙曰容シュ ○伏フツ日フツ ○細君サイジン謂サイ

謂今日後即君コ ○侏儒シュジュ字彙曰容シュ ○伏フツ日フツ ○細君サイジン謂サイ

謂今日後即君コ ○侏儒シュジュ字彙曰容シュ ○伏フツ日フツ ○細君サイジン謂サイ

謂今日後即君コ ○侏儒シュジュ字彙曰容シュ ○伏フツ日フツ ○細君サイジン謂サイ

十八史略纂卷之十一

也 ○聽信トニルシ、マコ ○末年暮年

二十四 ○六經詩、書、易、禮、樂、春秋 ○七十通鑿ノ注ニ七十一トス ○堯傳説ノ相進不一概

母門古ヘ堯ノ母媛ムコト ○四月今此名ヲ用ユ ○臥起ネタリ

三十四 ○詭詐也 ○須鬚ニ ○丁外人丁ハ姓外人ハ名也 ○畫室陳仁錫曰疑是漢大

臣行罪之所狀 ○游狹オトコ ○省ク ○寬スル ○奢縱ホシイ

四十四 ○僵樹ルキノ ○俄也

五十四 ○抑制ル

六十四

○膠乘乘去声尊者居左御者 ○艾刺ハ針也 ○選モ

用エラビ ○犢小牛 ○單車謂獨行不從車騎也 ○鈞距ハ八也

言ハ其欺詐ヲ距塞スルヲ云也 ○銖十 ○兩二十

七十四 ○託也 ○矜哀レ ○織苴之念立チト云

八十四 ○乞骸骨辭職スル ○祖道綱鑑注曰行祭為道路祈也

故後人以為行神出行 ○供張陳設 ○先零羌種ノ名也 ○圖者祭之目之饗飲焉

上方畧綱鑑注曰圖画其地形并 ○要害謂險岨 ○條約ニメ兵備ヲ約束

○封事已ガ意見ヲ封ニメ

私第 ○中中世

○玄孫孫ノ世ノ ○佚游ホシイマ

○洽アマネ ○諸父伯叔 ○三世成帝哀 ○久次クヒサシ

○太玄擬 ○法言擬論 ○奇字本傳注師古曰古文之異者明徐炳

○天祿閣在安西藏漢 ○懦弱ヨハキ ○刮席刮音閑入

○羞愧ハギサウ ○大赦天下中ニユル ○詣至ル ○罷置廢立 ○改易カヘキ

○錯刀黄金ヲヌリツ ○契刀環リノ大

○大錢徑リ寸ニ分 ○劉字卯金刀

○九族高祖曾祖祖父已

○蝗災虫 ○癘ミキリ

○父老漢ノ時ヨリナガイキシ

○前數月マヘクノ

○威儀

○遷都カヘル

○降平

○儀儀ヲ云フナリ

○威儀

○威儀

○威儀

八十五 七十五

九十五

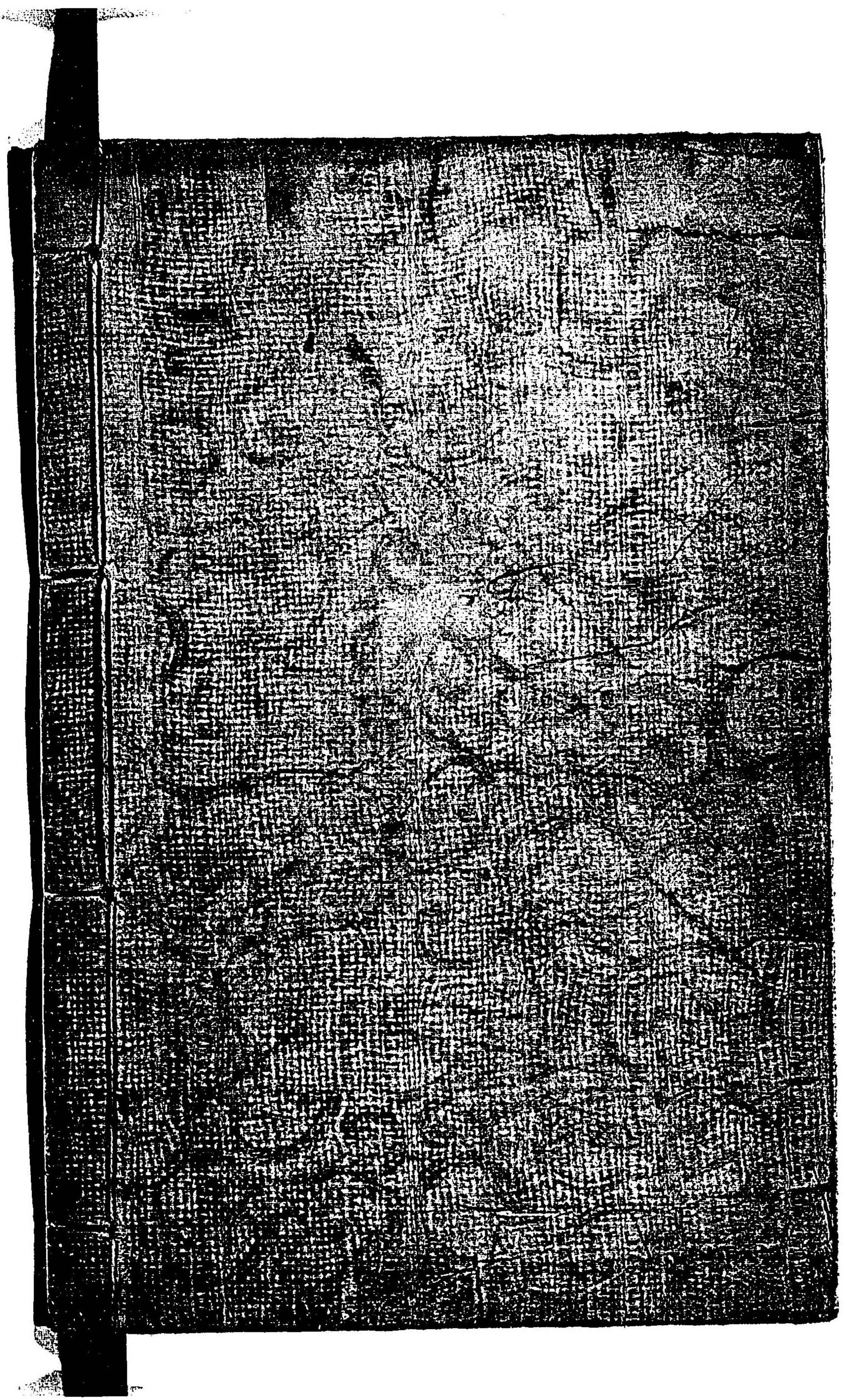
十六

卷之二 畢

一ノ...

十八史畧講案卷上

十八史畧講案卷上 畢



特32

274

003138-001-7

特32-274

十八史略講案

新井 隆存 / 編

上

M9

ACC-1219

